

富士山世界文化遺産学術委員会（委員長・遠山敦子元文科相）が6日、東京都内で開かれ、山梨県が進める富士登山鉄道構想について、世界遺産の価値を保全する観点から検証する小委員会を設置することを決めた。委員から構想に「観光目的の鉄道」という印象と景観保全などの観点から慎重な対応を求める声が続出。遠山委員長は「構想はあまりにも問題が多くなる」と指摘し、学術委の意見を検討過程に盛り込むよう求めた。

（鈴木秀人）

学術委には、文化財や火山防災分野などの有識者9人が出席。山梨県の担当者が富士登山鉄道構想検討会でまとめて骨子を紹介した。環境や景観の保全技術的観点から、富士山有料道路（富士スバルライン）上への次世代鉄道路線の必要性を理解できるよう電車（しるべ）敷設が「最もに整理を求めた。

優位性が高い」とする内容を説明した。

これに対し、委員の一人は「観光誘致、観光開発のための鉄道」という印象。なかなか納得できない」と疑問を投げられた。議論する小委員会を設置することを確認した。（学術委として）この問題に取り組むべきだ」と意見を集めることで、遠山委員長は学術委の意見をまとめ、解決策を検討すべきだとの意見もあつた。

II 関連記事3、27面

世界遺産学術委検証へ

富士登山鉄道に慎重意見

土山の普遍的価値を守るといふ山梨、静岡両県の責務を果たす上で大事なことだ」と指摘。山梨、静岡両県は今後、小委員会の設置時期について検討する。

長崎幸太郎知事は取材に、

「地元意見などを踏まえて構思が具体化する段階になつた際に学術委の意見を聞きたい」と述べた。学術委ではこのほか、著しい混雑の解消や富士山5合目のアクセス交通の在り方の検討する。

「地元意見などを踏まえて構思が具体化する段階になつた際に学術委の意見を聞きたい」と述べた。学術委ではこのほか、著しい混雑の解消や富士山5合目のアクセス交通の在り方の検討する。

「地元意見などを踏まえて構思が具体化する段階になつた際に学術委の意見を聞きたい」と述べた。学術委ではこのほか、著しい混雑の解消や富士山5合目のアクセス交通の在り方の検討する。